

「鱗形」を歩く

鱗形の舞台は神奈川県江ノ島の弁財天です。安芸の宮島、大和の天の川、近江の竹生嶋、陸前の金華山に並ぶ五大弁財天のひとつで、古くから芸能・財産・福德賦与の女神として多くの人の信仰を集めてきました。首都圏から手軽に行ける観光地でもあり、江ノ島は平日でも沢山の観光客が訪れます。藤沢駅から江ノ電に乗り換え、片瀬江ノ島駅を目指しました。湘南の家々の軒すれすれに街を抜けて、国道沿いの海岸線を車と競争しながら走るなど変化に富んだ景色を眺めるうちに、すっかり童心に返っております。

現在の江ノ島は、橋で陸続きになっているので簡単に歩いて渡ることができます。島の入口から始まる参道を上っていくと、辺津宮、文徳天皇仁寿三年（八五三年）に慈覚大師によって創建された中津宮、奥津宮が頂上にむかって点在し、参道を登りきった龍宮を降りて海岸線近くまで行くと岩屋があります。時政はその岩屋に籠って祈願を続け、海中から現れた龍女に三枚の鱗を授けられたとの話を社務所で伺いました。



半年前の九州旅行の時に見つけた絵馬
龍女から三枚の鱗を賜った時政が描かれている

実は半年前の「第九回廣田鑑賞会」の時に「綾鼓」で訪れた福岡県蘇八幡木丸殿近くの福成神社の拝殿の中に、上図のような「時政弁財天より鱗を賜る図」と描かれた絵馬が奉納されていました。次回の演目を「鱗形」と決めていたので、江ノ島から遠く離れた九州で「鱗形」へのご縁を頂いた思いでした。絵馬には龍女から授かった三枚の鱗を時政が扇に拝受拝礼している様子が描かれています。

今回江ノ島でも同様の絵馬を探しましたが、見つけることはできませんでした。代わりに江ノ島神社の屋根瓦や灯籠などの三つ鱗に波の紋や、奥津宮の石灯籠に彫られた龍女と童子の図などの詞章にも出てくるものです。

旅の最後に、鎌倉駅近くの参道横にある豊嶋屋本店で「みつろこ」という干菓子を見つけました。鳩サブレで有名なお店ですが、この干菓子は本店でしか取り扱っていないと聞き、偶然の出会いに驚きながらも鎌倉まで足を伸ばした今回の小旅行の嬉しい締めくくりとすることができました。

平成二十年 皇月吉日

廣田 幸 稔

江ノ電
江ノ電グッズは種類
が豊富だった



鎌倉高校前から江ノ島を望む

江ノ島神社



奥津宮
屋根瓦の三つ鱗に波の紋
石灯籠に彫られた龍女と童子

